

## 令和6年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 城東 小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和6年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

### 【調査の概要】

#### 1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

#### 2 調査期日

令和6年4月18日(木)

#### 3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問調査）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問調査）

#### 4 本校の実施状況

第4学年	国語	58人	算数	58人	理科	58人
------	----	-----	----	-----	----	-----

第5学年	国語	64人	算数	65人	理科	65人
------	----	-----	----	-----	----	-----

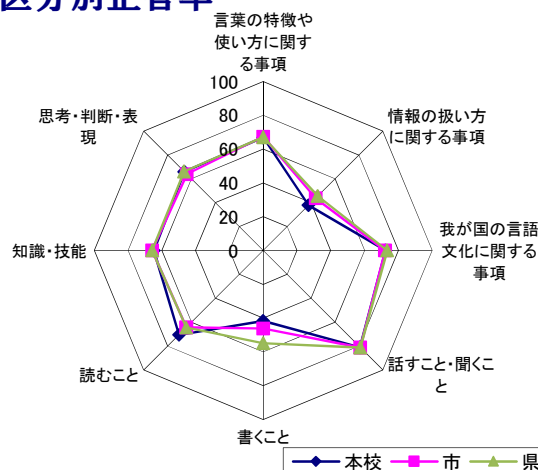
#### 5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

# 宇都宮市立城東小学校 第4学年【国語】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	66.9	67.4	67.1
	情報の扱い方に関する事項	37.9	43.8	45.7
	我が国の言語文化に関する事項	72.4	72.1	73.4
	話すこと・聞くこと	81.0	81.2	81.2
	書くこと	41.8	46.2	54.9
	読むこと	70.5	64.3	64.5
観点	知識・技能	64.7	65.7	65.7
	思考・判断・表現	66.0	64.0	66.3



## ★指導の工夫と改善

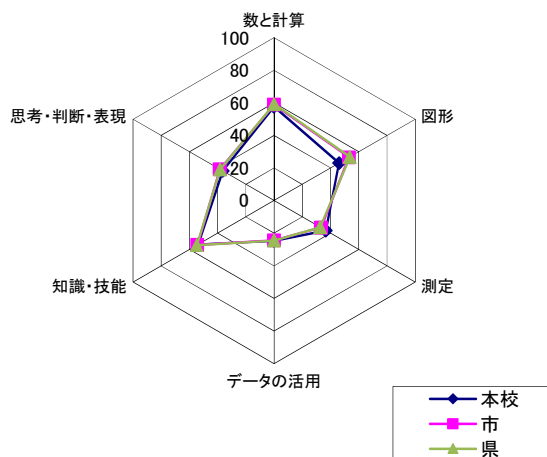
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	○「言葉の特徴や使いに関する事項」の平均正答率は、県や市の平均正答率とほぼ同等である。 ○漢字を正しく読む問題では、3問中2問が県や市の平均正答率を上回っている。 ●主語と述語の組合せとして適するものを選ぶ問題では、県の平均正答率を14ポイント、市の平均正答率を10.9ポイント下回っている。	・朝の学習や宿題などで既習漢字を定期的に復習するようにしたり、自主学習で苦手な漢字の練習に取り組むように促したりして、継続して、漢字の学習をする機会を増やしていく。 ・学習の中で文章の中の主語と述語を見付ける活動を取り入れるとともに、読書を推奨し、文章を読むことに慣れ親しむことができるようにする。
情報の扱い方に関する事項	●「情報の扱い方に関する事項」の平均正答率は、県の平均正答率を7.8ポイント、市の平均正答率を5.9ポイント下回っている。 ●国語辞典に載っている情報の中から、例文で用いられた言葉の意味として適しているものを選ぶ問題では、県の平均正答率を7.8ポイント、市の平均正答率を5.9ポイント下回っている。	・授業の中で出てきた言葉について、国語辞典で調べられる活動を増やし、国語辞典の使い方に慣れ親しむことができるようにする。
我が国の言語文化に関する事項	○「我が国の言語文化に関する事項」の平均正答率は、県や市の平均正答率とほぼ同等である。 ○へんやつくりを組み合わせて、使わないつくりを選ぶ問題の平均正答率は、県や市の平均正答率とほぼ同等である。	・漢字のへんやつくりに関する問題では、72.4%の児童が正しいへんを選ぶことができている。今後も、新出漢字の学習の際にへんやつくりなどの漢字の部首に着目させたり、漢字辞典で部首索引を使って漢字を集めたり調べたりする活動を折に触れて取り入れ、興味・関心をもって学習できるよう、指導する。
話すこと・聞くこと	○「話すこと・聞くこと」の平均正答率は、県や市の平均正答率とほぼ同等である。 ○参加者の発言の内容に着目して、司会者の発言として適するものを選ぶ問題では、県を4.8ポイント、市を3.6ポイント上回っている。 ●相手に伝わるように、自分の考えを理由を挙げながら記述する問題では、県の平均正答率を7.4ポイント、市の平均正答率を5.4ポイント下回っている。	・話し合い活動を行うときに、聞き手に考えが伝わりやすい言い方を工夫するとともに、司会者の役割も考えて話し合いを進められるような指導を行う。 ・話し手の意見に賛成か反対かを考え、理由を挙げながら考えをまとめ、聞き手に伝わる話し方ができるよう指導を行う。
書くこと	●「書くこと」の平均正答率は、県の平均正答率を13.1ポイント、市の平均正答率を4.4ポイント下回っている。 ●段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書く問題では、県の平均正答率を13.6ポイント、市の平均正答率を4.8ポイント下回っている。 ●全設問において、平均正答率が県や市を上回っているが、無解答の児童の割合も20%程度と高い。	・国語の学習に限らず、文章を書く活動を取り入れるように努め、内容のまとまりで段落を作ったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えるよう指導していく。 ・書くことの指導においては、伝えたい相手や目的に応じて書く材料の集め方やまとめ方を工夫し、伝えたいことを明確に記述できるよう、指導を行う。
読むこと	○「読むこと」の平均正答率は、県の平均正答率を6ポイント、市の平均正答率を6.2ポイント上回っている。 ○物語文の内容を読み取る問題では、全ての設問で県や市の平均正答率を上回っている。特に、登場人物の気持ちについて、叙述を基に捉える問題では、93.1%と平均正答率が高い。	・物語文では、文章の表現を基に場面の様子や登場人物の気持ちの変化などを読み取ることができるよう、教科書にある物語教材の読み取りを通して指導を行ったり、日々の読書を推奨したりしていく。 ・説明文では、文と文との意味のつながりを意識して読んだり、中心となる言葉を見付けたりできるよう、指示語や接続語、文末表現などに着目しながら、内容を捉えるような学習活動を行うようにする。

# 宇都宮市立城東小学校 第4学年【算数】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	57.7	58.9	59.2
	図形	46.0	53.0	53.7
	測定	36.6	33.1	32.6
	データの活用	24.6	24.4	24.6
観点	知識・技能	53.8	54.3	54.7
	思考・判断・表現	36.4	38.5	38.3



## ★指導の工夫と改善

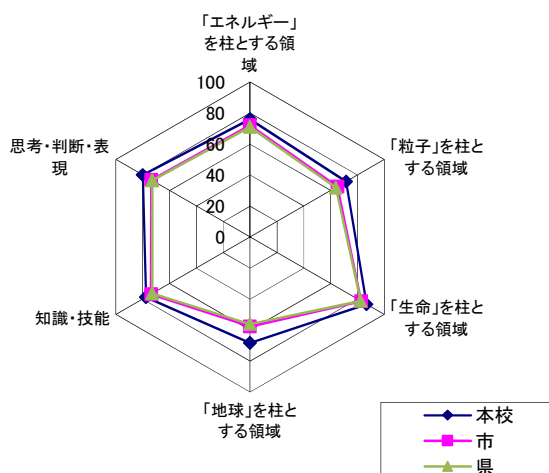
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>○「数と計算」の平均正答率は、県や市の平均正答率と同等である。</p> <p>○「3けた-3けた=3けた」の計算の問題では、県の平均正答率を7.8ポイント、市の平均正答率を9.5ポイント上回っている。</p> <p>●分数の表す正しい大きさや同分母の分数の加法の意味を問う問題では、県や市の平均正答率を17.7ポイント以上下回っている。</p> <p>●かけ算の計算の仕方を記述する問題では、県の平均正答率は10.3%と低いが、本校の平均正答率は3.5%と著しく低い。</p>	<p>・朝の学習の時間を利用したプリント学習や計算スキルの活用を通して、一人一人の計算技能の向上に努める。</p> <p>・分数に苦手意識をもつ児童が多く見られるため、分数についての基礎的基本的な既習事項を確認しながら丁寧に復習させるとともに、算数の授業だけでなく日常生活の中で分数を活用する機会を増やしていく。</p>
図形	<p>●「図形」の平均正答率は、県の平均正答率を7.7ポイント、市の平均正答率を7ポイント下回っている。</p> <p>○二等辺三角形になる図を選ぶ問題では、県や市の平均正答率と同等である。</p> <p>●球の半径を利用して箱のたての長さを求める問題では、県の平均正答率を6.3ポイント、市の平均正答率を4ポイント下回っている。</p> <p>●円の性質を利用して正三角形を作図する問題では、県の平均正答率を17.6ポイント、市の平均正答率を16.5ポイント下回っている。</p>	<p>・図形についての基礎的基本的な既習事項を確認しながら、作図の仕方を丁寧に指導し、繰り返し練習を行うことで定着を図る。</p> <p>・辺の長さや面積の求め方、作図の仕方等は、デジタル教科書やタブレット等を用いて視覚的、体験的に捉えさせることで、理解を深めていく。また、児童の理解に応じて教材を工夫したり、作図を練習する機会を設けたりする等、指導の充実に努める。</p>
測定	<p>○「測定」の平均正答率は、県や市の平均正答率を3ポイント以上上回っている。</p> <p>○前後の時刻や時間の経過から、途中の時間を求める問題では、県の平均正答率を15.6ポイント、市の平均正答率を13.5ポイント上回っている。</p> <p>●地図から2つの道のりを読み取り、差を答える問題では、無回答率が県平均無回答率を8.7ポイント、市の平均無回答率を6.5ポイント上回っている。</p>	<p>・算数の授業だけでなく、社会科や理科などの他教科や日常生活の中で、実際に器具を操作して、長さや重さなどを測る機会を設けたり、地図帳を開く機会等を利用して、距離や道のりの読み取り、計算の練習をさせたりするような指導を行っていく。</p>
データの活用	<p>○「データの活用」の平均正答率は、県や市の平均正答率と同等である。</p> <p>○棒グラフを読み取る問題では、県や市の平均正答率を3.8ポイント以上上回っている。</p> <p>●値の大きい棒グラフを読み取る問題では、県の平均正答率を6.4ポイント、市の平均正答率を4.7ポイント下回っている。</p>	<p>・様々な項目のグラフを読む練習を繰り返し行い、必要な情報を正確に選び、出題されている文章との整合性を判断できるような学習活動を取り入れる。</p> <p>・算数の授業だけでなく、社会科や理科などの他教科と関連させたり、日常生活の中で表やグラフを活用する機会を増やしたりしていく。</p>

# 宇都宮市立城東小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	76.0	72.1	71.0
	「粒子」を柱とする領域	71.6	65.2	63.9
	「生命」を柱とする領域	86.8	82.8	82.4
	「地球」を柱とする領域	68.4	57.7	56.2
観点	知識・技能	77.6	73.8	72.8
	思考・判断・表現	79.9	73.7	72.8



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	<p>○「エネルギー」を柱とする領域の平均正答率は、市の平均正答率を3.9ポイント上回っている。問題の内容別に見ても、ほとんどの問題において県や市の平均正答率を上回っている。</p> <p>○「風とゴムの働き」については、どちらの問題も、県の平均正答率を8ポイント以上上回っている。</p> <p>○「光と音の性質」については、音の大小とふるえ方との違いを答える問題で、県の平均正答率を7.9ポイント上回っている。</p>	<p>・既習内容や児童の生活経験を基に、予想や仮説をもたせて観察や実験を行い、実感を伴った理解ができるようにする。</p> <p>・学習した内容を基に、さらに発展的な考察ができるよう、基礎的な知識について細やかな指導を行い、既習の内容の定着を図るようにする。</p>
「粒子」を柱とする領域	<p>○「粒子」を柱とする領域の平均正答率は、県や市の平均正答率をそれぞれ6ポイント以上上回っている。</p> <p>○「物と重さ」について、同じ体積でも物の種類によって重さが違うことについて表と関連付けて考える問題で、県や市の平均正答率を9ポイント以上上回っている。</p>	<p>・物の形を変えても重さは変わらないことや体積が同じ物でも材質によって重さが違うことを実験を通して理解できるようにする。</p> <p>・実験結果から答えを導き出し、その理由を考えたり話し合ったりする学習活動を通して、理由について具体的に記述できるようにする。</p>
「生命」を柱とする領域	<p>○「生命」を柱とする領域の平均正答率は、県や市の平均正答率を4ポイント以上上回っている。問題の内容別に見ても、ほとんどの問題において県や市の平均正答率を上回っている。</p> <p>○「昆虫の成長と体のつくり」については、ダンゴムシが昆虫の仲間ではない理由を記述する問題で、県や市の平均正答率を9ポイント以上上回っている。</p>	<p>・基礎的な実験器具の使い方についてきめ細かい指導を行う。</p> <p>・実験結果から答えを導き出し、その理由を考えたり話し合ったりする学習活動を通して、理由について具体的に記述できるようにする。</p>
「地球」を柱とする領域	<p>○「地球」を柱とする領域の平均正答率は、県や市の平均正答率を10ポイント以上上回っている。</p> <p>○「太陽と地面のようす」については、全ての問題で、県や市の平均正答率を上回っている。特に、かげのできる向きからかげふみで逃げる方向を考えて選ぶ問題では11.4ポイント、太陽が動く方位を選ぶ問題では18.9ポイント、それぞれ県の平均正答率を上回った。</p>	<p>・観察や実験に使う器具の扱い方を丁寧に指導し、正しく計測できるスキルを身に付けさせる。</p> <p>・自然現象と実体験を関連付けて観察したり実験したりすることで、具体的な根拠をあげて考察できるようにする。</p>

## 宇都宮市立城東小学校 第4学年 児童質問調査

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家庭での学習」に関する質問では、「家で学校の宿題をしている」と「家で学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」に肯定的回答をした児童の割合が、県や市の平均とほぼ同等である。

○「読書」に関する質問では、「1か月に11冊以上本を読む」と回答した児童が、県や市の平均を大きく上回っている。本校の児童が読書をすることにたいへん意欲的であることがうかがえる。引き続き、調べ学習などで図書に触れる機会を増やしていきたい。

○「毎日、朝食を食べている」についての質問に肯定的回答をした児童の割合が、県や市の平均をやや上回っている。朝食を食べることの大切さを意識している児童が多いことがうかがえる。食育を通して、1日の体の調子を整える朝食の大切さを伝えるようにする。

○「平日にどれくらいの時間、テレビやDVD、動画などを見たり、聞いたりしますか」「平日にどれくらいの時間、ゲームをしますか」についての質問では、「1時間以上、2時間より少ない」と回答した児童の割合が一番多く、県や市の平均を上回っている。家庭でルールをきちんと話し合い、約束を守って視聴したり、使用したりしている様子が分かる。

●「家庭での学習」に関する質問では、「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」「家で、学校の授業の予習や復習をしている」「家で、だいたい同じ時刻に勉強に取り組むようにしている」に肯定的回答をした児童の割合が、県の平均を下回っている。家庭学習の手引きをもとに、家庭学習の内容について繰り返し助言するとともに、計画的に行っていく大切さについても伝えるようにし、家庭学習のやり方を身に付けることができるように指導する。

●「学ぶ意欲」に関する質問では、「できるだけ自分一人の力で課題を解決しようとしている」「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる」を中心に、肯定的回答をした児童の割合が、県や市の平均を全体的に下回っている。学習の中で自力で解決する活動を取り入れ、やり遂げた達成感やうれしさを実感させ、学習への意欲を高めていきたい。

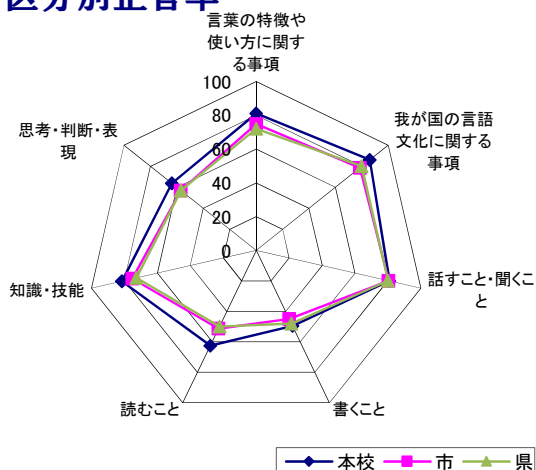
●「学校での様子」に関する質問では、肯定的回答をした児童の割合が、県や市の平均を全体的に下回っている。授業において、目標を明確に示したり、めあてやねらいに対する振り返りの時間を十分にとったりすることで、何をがんばる時間なのかを意識させて、ゴールに向かって課題に集中できるようにしていきたい。さらに授業の中で、積極的に対話的な活動を取り入れ、ペアやグループなどの少人数から段階を踏んで、クラスの中での話し合いに参加できるよう支援を行う。

●「学習は、将来のために大切だと思いますか」についての質問では、国語以外の科目において肯定的回答をした児童の割合が、県や市の平均を下回っている。現在の学習が将来にどのように繋がっていくのか、また、将来を見通した目標をもつことができるよう、具体例を取り上げた話をするなど教材を工夫して、道徳の授業を中心に指導していきたい。

# 宇都宮市立j城東小学校 第5学年【国語】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	81.1	74.8	72.0
	我が国の言語文化に関する事項	85.9	78.6	79.9
	話すこと・聞くこと	80.9	80.4	80.0
	書くこと	49.6	45.1	48.0
	読むこと	62.5	51.3	50.0
観点	知識・技能	81.5	75.2	72.8
	思考・判断・表現	63.9	57.0	57.0



## ★指導の工夫と改善

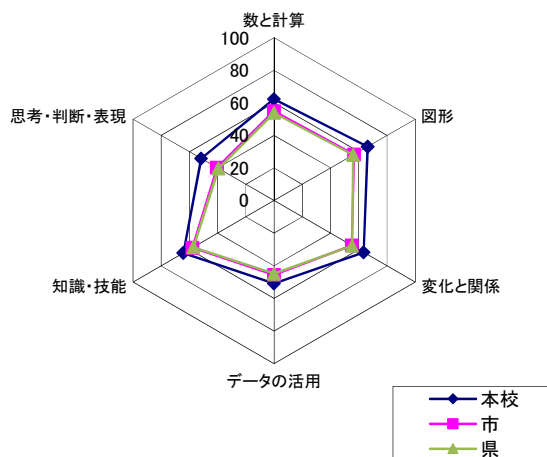
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	○「言葉の特徴や使いに関する事項」では、県の平均正答率を9.1ポイント、市の平均正答率を6.3ポイント上回っている。 ○漢字を正しく読む問題の正答率が90%を超え、漢字を正しく書く問題の正答率も市や県の平均正答率を上回っている。 ●文の中における修飾と被修飾の関係を捉える問題の正答率は10.9%であり、県の平均正答率を4.2ポイント、市の平均正答率を1.5ポイント下回っている。	・言葉の学習において、修飾語の意味を正しく理解させ、文の中における修飾語と被修飾語の関係を捉える機会をとり、学習内容の定着を図る。
我が国の言語文化に関する事項	○「我が国の言語文化に関する事項」では、県の平均正答率を6ポイント、市の平均正答率を7.3ポイント上回っている。	・今後も、慣用句を授業で積極的に取り上げ、言語文化に関する学習内容の定着を図る。
話すこと・聞くこと	○「話すこと・聞くこと」の正答率は、県や市の平均正答率と同等である。 ○話し手が伝えたいことの内容を捉える問題では、県の平均正答率を5ポイント、市の平均正答率を3.9ポイント上回っている。 ●司会の役割を果たしながら話し合い、参加者の発言を基に考えをまとめる問題では、県の平均正答率を3.9ポイント、市の平均正答率を3.6ポイント下回っている。	・話し合い活動や互いの意見を共有する活動を通して、話し手の意見の中心を捉えたり、自分の意見をまとめて発信したりする機会を作り、話す力や聞く力の向上を図る。
書くこと	○「書くこと」の正答率は、県や市の平均正答率と同等である。 ○内容の中心を明確にし、事実を伝える文章を書く問題では、県の平均正答率を6.2ポイント、市の平均正答率を7ポイント上回っている。 ●県や市の平均正答率を上回った問題が多いものの、全ての問題で無解答率が県や市を上回っている。	・文章を書くときには、内容を整理し、書きたいことの中心を明確にして、考えをまとめられるように指導する。 ・文章の書き方を示したり、短い文章を書く機会を多く取り入れたりすることで、書くことに対する苦手意識の軽減を図る。
読むこと	○「読むこと」では、県の平均正答率を12.5ポイント、市の平均正答率を11.2ポイント上回っている。 ○叙述を基に文章の内容を捉える問題では、県の平均正答率を20.9ポイント、市の平均正答率を20.6ポイント上回っている。 ●登場人物の気持ちの変化について具体的に想像する問題や叙述を基に文章の内容を捉える問題では、どちらも県や市の平均正答率を上回っているものの、正答率は50%程度だった。	・物語文の学習において、登場人物の気持ちを想像したり、気持ちの変化について考えたりする活動を取り入れていく。 ・説明文の学習において、段落の構成や文章の内容を整理して捉える活動を取り入れていく。

# 宇都宮市立城東小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	62.3	54.9	53.7
	図形	66.2	56.6	56.1
	変化と関係	63.5	55.1	55.2
	データの活用	50.8	45.5	44.8
観点	知識・技能	64.3	57.8	57.2
	思考・判断・表現	51.7	40.6	39.5



## ★指導の工夫と改善

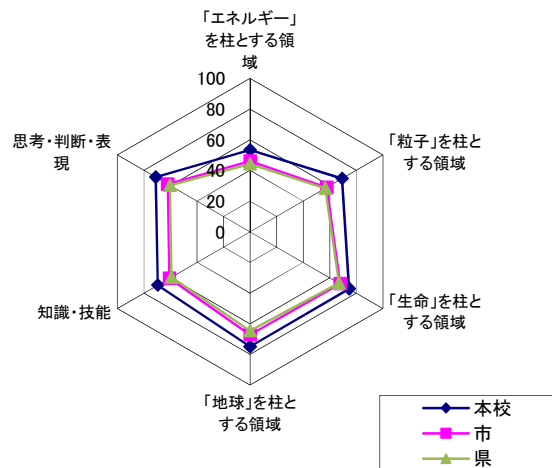
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>○「数と計算」の平均正答率は、県の平均正答率を8.6ポイント、市の平均正答率を7.4ポイント上回っている。</p> <p>○四則混合の計算に関する問題では、県や市の平均正答率を15ポイント以上上回っている。</p> <p>●除法の性質を利用した計算の工夫について説明する問題では、県や市の平均正答率を15ポイント以上上回っているが、35.4%と低い。</p>	<p>・朝の学習の時間を利用したプリント学習や計算スキルの活用を通して、計算技能の定着に努める。</p> <p>・数のしくみを確認したり、大小を比べたり、おおよその数を見積もったりする等の活動を意図的に設定し、数に親しみ数量感覚を養うとともに、数のしくみや概算等への理解を深めるようにする。</p>
図形	<p>○「図形」の平均正答率は、県や市の平均正答率を10ポイント程度上回っている。</p> <p>○180度より大きい角の大きさを求める問題では、平均正答率は72.3%で、県の平均正答率を26.8ポイント、市の平均正答率を24.2ポイント上回っている。</p> <p>●平行四辺形の作図をする問題では、県や市の平均正答率をやや上回っているが、52.3%と低い。</p> <p>●直方体の面に垂直な辺を全て答える問題では、県や市の平均正答率を4ポイント程度上回っているが、無解答率が10.8%と高い。</p>	<p>・図形についての基礎的基本的な既習事項を確認しながら丁寧に指導し、繰り返し練習を行うことで定着を図る。</p> <p>・面積の求め方や作図の仕方等は、デジタル教科書やタブレット等を用いて視覚的、体験的に捉えさせることで、理解を深めていく。また、児童の理解に応じて教材を工夫したり、作図を練習する機会を設けたりする等、指導の充実に努める。</p> <p>・学習や生活の中で、身近なものの面積や体積、単位、角度等を考える機会を意図的に設定し、量感を養う。</p>
変化と関係	<p>○「変化と関係」の平均正答率は、県の平均正答率を8.3ポイント、市の平均正答率を8.4ポイント上回っている。</p> <p>○表を横に見て、使用した棒の本数がいくつ増えているかを答える問題では、県の平均正答率を5.8ポイント、市の平均正答率を6.8ポイント上回っている。</p> <p>●割合を使った比べ方について説明する問題では、県の平均正答率を10.6ポイント、市の平均正答率を8.7ポイント上回っているが、40%と低い。</p>	<p>・表や図、文章から数量の変わり方を読み取る際は、活動時間を確保し、変化する数に対して、それに伴う数がどのように変化するのかを確認しながら学習を進めることで、数量の関係について捉えられるようにする。</p> <p>・読み取ったことから2つの数量の関係を説明したり、式に表したりする活動を意図的に取り入れ、伴って変わる2つの数量の関係への理解を促していく。また、繰り返し練習を行い、様々な場面での活用を図ることができるようになる。</p>
データの活用	<p>○「データの活用」の平均正答率は、県の平均正答率を6ポイント、市の平均正答率を5.3ポイント上回っている。</p> <p>○折れ線グラフを読み取り、気温差が最も大きい月を答える問題では、県の平均正答率を12ポイント、市の平均正答率を9.4ポイント上回っている。</p> <p>●グラフから読み取った数を示し、変化の様子を説明する問題では、県と市の平均正答率と同等であるが、9.2%と低い。</p> <p>●「データの活用」の全ての問題で無解答率が高く、一番低いものでも16.9%であった。特に、変化の様子を言葉で説明する問題では、46.2%と著しく高い。</p>	<p>・折れ線グラフや二次元表を正確に読み取れるように、ポイントを明確にして理解を促し、データを正しく捉える力を伸ばすようにする。</p> <p>・グラフから読み取った事柄や変化の様子について、根拠を明確にして言葉や文章で説明する活動を取り入れる。</p> <p>・日常生活や他教科の学習を通して、様々なグラフや表を活用する機会を増やしていく。</p>

# 宇都宮市立城東小学校 第5学年【理科】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	53.3	46.0	44.3
	「粒子」を柱とする領域	69.2	57.7	56.6
	「生命」を柱とする領域	74.5	67.8	66.9
	「地球」を柱とする領域	74.9	67.2	64.6
観点	知識・技能	69.6	60.8	59.2
	思考・判断・表現	71.1	62.1	60.4



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	<p>○「エネルギー」を柱とする領域の平均正答率は、県の平均正答率を9ポイント、市の平均正答率を7.3ポイント上回っている。</p> <p>○並列つなぎの回路に流れる電流の大きさが乾電池ひとつのときと同じであることについて理解しているかどうかをみる問題では、県の平均正答率を17.9ポイント、市の平均正答率を13.6ポイント上回っている。</p> <p>●簡易検流計の針のふれる向きが電流の向き、針の振れ具合が電流の大きさを表すことを理解しているかどうかをみる、短文で答える問題では、正答率は県や市を上回るものの35.4%と低く、無解答率も県を6.6ポイント、市を6.5ポイント上回っており、理由を文で表すことに苦手意識をもっている。</p>	<p>・実験、観察の結果を表やグラフ、図などに整理してまとめるようにし、結果から考えられることについてグループ等で意見交換しながら、理解を深められるようにする。</p> <p>・導入や考察において、自分の考えを書いたり、話したりする機会を設けるとともに、課題について根拠のある予想をしたり、学んだことを身の回りの現象に結び付けたりすることができるようにする。</p>
「粒子」を柱とする領域	<p>○「粒子」を柱とする領域の平均正答率は、県の平均正答率を12.6ポイント、市の平均正答率を11.5ポイント上回っている。</p> <p>○実験の結果から泡の正体を推測できるかどうかをみる、記述式の問題では、県の平均正答率を19.4ポイント、市の正答率を18.3ポイント上回っている。</p> <p>●実験の結果からあたためた時の金属と空気の体積の変化を比較できるかどうかをみる問題では、県の平均正答率を3.2ポイント、市の正答率を5.3ポイント下回っている。また、無解答率も県や市を上回っており、理由を文で表すことに苦手意識をもっている。</p>	<p>・日々の生活の中で、身の回りで起きている事象について根拠と結び付けて考えたり、説明したりする機会を設定し、科学的思考を深められるようにする。</p> <p>・授業等で自分の考えを記述する際は、ポイント等を丁寧に指導し、表現することへの抵抗感を減らしていく。</p>
「生命」を柱とする領域	<p>○「生命」を柱とする領域の平均正答率は、県の平均正答率を6.7ポイント、市の平均正答率を7.6ポイント上回っている。</p> <p>○骨と関節について理解しているかどうかをみる問題では、県の平均正答率を14.4ポイント、市の平均正答率を13ポイント上回っている。</p> <p>●季節と植物のようすについて理解しているかどうかをみる問題では、県平均を9ポイント、市平均を7.9ポイント上回っているものの、46.2%と正答率が低い。</p>	<p>・教科書の資料以外にも、ICTを活用し、映像など様々な資料を提示することで、季節と植物のようすについて理解を深められるようにする。</p>
「地球」を柱とする領域	<p>○「地球」を柱とする領域の平均正答率は、県の平均正答率を10.3ポイント、市の平均正答率を7.7ポイント上回っている。</p> <p>○天気と一日の気温の変化の関係について記述できるかどうかをみる問題では、県の平均を19%、市の平均を15.4%上回っている。</p> <p>○空気中の水蒸気が冷やされると液体の水になることを理解しているかどうかをみる、短い文で答える問題では、県の平均正答率を21.6ポイント、市の平均正答率を17.1ポイント上回っている。</p>	<p>・実験等を活用し、実体験をともなう学習を行うことで、さらに興味・関心を深めるとともに、より深い知識の定着へつなげていく。</p>



## 宇都宮市立城東小学校 第5学年 児童質問調査

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「学校での様子」の質問では、「授業の中で目標(めあて・ねらい)が示されている」「授業で分からないことがあると先生に聞くことができる」の肯定的回答をした児童の割合が、県や市の平均と同等である。  
 ○「家族のこと」の質問では、「家の人と学校での出来事について話している」「家の人とはあなたがほめてもらいたいことをほめてくれる」「自分は家族の大切な一員だと思う」の肯定的回答をした児童の割合が、市の平均と同等である。  
 ○「教科の学習のこと」の質問では、「歴史上の人物や出来事を扱っているテレビを見たり本を読んだりするのは好きだ」に肯定的回答をした児童の割合が、県や市の平均を上回っている。  
 ●「家庭での学習」の質問では、「家で自分で計画を立てて勉強している」「家で学校の宿題をしている」「家で学校の授業の予習をしている」「家で学校の授業の復習をしている」「家でテストで間違えた問題について勉強している」「家で学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」「家で勉強するときにだいたい同じ時刻に取り組むようにしている」に肯定的回答をした児童の割合が、県や市の平均を下回っていた。引き続き、家庭学習の大切さを確認し、家庭学習の習慣が身に付くように指導を続けていく。  
 ●「学ぶ意欲」の質問では、「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある」「勉強していて、『不思議だな』『なぜだろう』と感ずることがある」「疑問や不思議に思うことは、分かるまで調べたい」「本やインターネットなどを利用して、勉強に関する情報を得ている」「難しい問題に出会うと、よりやる気が出る」に肯定的回答をした児童の割合が、県や市の平均を下回っている。児童の学ぶ意欲が高まるように支援を続けていく。  
 ●「学校での様子」の質問では、「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる」「グループなどでの話合いに自分から進んで参加している」「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」「学校のきまりを守っている」「自分はクラスの人の役に立っていると思う」「学校での役割や係の仕事に責任をもって取り組んでいる」に肯定的回答をした児童の割合が、県や市の平均を下回っている。児童が主体性をもち、前向きな気持ちで学校生活を送れるよう支援していく。  
 ●「家での生活」の質問では、「毎日朝食を食べている」「毎日同じくらいの時刻に寝ている」「早寝早起きを心掛けている」に肯定的回答をした児童が、県や市の平均を下回っている。基本的な生活習慣を身に付けることの大切さを指導していく。  
 ●「自分自身のこと」の質問では、「自分にはよいところがあると思う」「難しいことでも失敗をおそれないで挑戦している」「自分の行動や発言に自信をもっている」「時間を上手に使うことを心掛けている」「人と話すことは楽しい」「誰に対しても思いやりの心をもって接している」「自分のよさを人のために生かしたいと思う」「自分も持っている能力を十分に発揮したい」「将来の夢や目標をもっている」に肯定的回答をした児童の割合が、県や市の平均を下回っている。児童の自己肯定感を高め、自信をもって生活できるよう支援していく。  
 ●「家族のこと」の質問では、「家の人と将来のことについて話すことがある」「家でのきまりや約束を守っている」「家の人と学習について話している」に肯定的回答をした児童の割合が、県や市の平均を下回っている。  
 ●「教科の学習のこと」の質問では、すべての教科において「○○の学習は好きですか」「○○の学習は将来のために大切だと思いますか」に肯定的回答をした児童の割合が、県や市の平均を下回っている。児童が必要を感じて、前向きに学習ができるよう指導していく。

## 宇都宮市立城東小学校 (第4・5学年共通) 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
基礎的・基本的な知識・技能の定着	本校では、昨年度まで「校内漢字・計算検定」を年間10回ずつ実施してきた。今年度からは、各学年で、漢字や計算を中心とする基礎的・基本的な内容について、年間を見通して計画的に練習や確認などを行い、定着に努めている。また、朝の学習(パワーアップタイム)を活用して、学年や学級で、プリントやドリル学習などを計画的に実施している。	国語では、「言語の特徴や使い方に関する事項」の正答率は、県や市とほぼ同等であるか上回っている。しかし、4年の漢字の書きについての設問では、正答率が50%程度で、無回答率も高い。また、5年の連用修飾語についての設問では、10.9%と正答率が低く、課題が見られる。 算数では、「数と計算」の基本的な内容の設問において、県や市とほぼ同等であるか上回っているものが多い。5年の大きな数の表し方についての設問では、県や市の正答率を上回っているものの、正答率が35.4%と低い。また、4年の分数の表す大きさについての設問において、正答率が県や市よりも19ポイント程度低く、課題が見られる。
児童が学ぶ楽しさを味わい、進んで考える授業づくり・学びの「城東スタイル」	本校では、学びの「城東スタイル」を掲げ、学校全体で共通理解のもと、児童が学ぶ楽しさを感じながら、思考力・判断力・表現力を発揮して、主体的に学習活動に取り組めるような授業づくりを目指している。めあてを明確に示して、見通しをもって自らの課題に取り組んだり、友達と学び合ったりできるような学習環境づくりに努めている。	5年の国語と算数、理科と4年の理科と国語(市のみ)において、「思考・判断・表現」の観点で、県や市の平均正答率を上回っている。 質問紙において、「授業であつかうノートには、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いている」と回答した児童の肯定的割合は、5年では県の割合とほぼ同等の91%であったが、4年では県の割合を11ポイント下回っていた。また、「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」と回答した児童の肯定割合は、4年では県の平均より6.3ポイント下回っており、5年では県の平均より17.6ポイント下回っていた。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
<p>4年国語の「書くこと」では、全部の設問で県や市の平均正答率を下回っており、無回答率も全て20.7%と高かった。特に、2段落構成で文章を記述する設問で、正答率が29.3%と低かった。</p> <p>5年国語の「書くこと」では、ほとんどの設問で県や市の平均正答率を上回っているものの、正答率は50%程度で、無回答率も23.4%以上であった。</p> <p>4年算数の、かけ算の計算の仕方を説明する記述式の設問では、県や市の平均正答率を5ポイント以上下回り、正答率は3.5%と著しく低く、無回答率も19%であった。他、根拠を文章で記述する設問や文章に適した言葉を考えて記入する設問での正答率が低く、無回答率が4割を超えるものも3問あった。</p> <p>5年算数の、グラフから読み取った数を示して変化の様子を説明する記述式の設問では、県や市の平均正答率とほぼ同等であるものの、正答率は9.2%と著しく低く、無回答率も46.2%であった。</p> <p>5年理科の、簡易検流計の針のふれ方から分かることを考え、電流の働きについて当てはまる言葉を記述する設問では、県や市の正答率を上回っているものの、正答率は35.4%と低く、無回答率も県や市より6ポイント高く18.5%であった。</p>	<p>自分の考えを文章や図等で表現し、他者に分かりやすく伝える力の育成</p>	<p>各教科等でめあてやねらいを明確にし、目的や相手を意識して児童が自分の考えを表現したり、互いに考えを伝え合ったりする活動が充実するような授業づくりを目指していく。また、授業のまとめや振り返りにおいて、学習したことをよく考えさせて文章に表すよう指導していく。</p> <p>根拠を明確にして言葉や文章で説明したり表現したりする活動を意図的に設定し、話すことや書くことに慣れさせるようにする。その際、目的や相手を意識させ、分かりやすく伝えるための工夫に着目させるようにする。</p> <p>理科で実験や観察を行う際は、目的や相手を意識して考察することができるように指導し、結果を表やグラフ、図などに整理してまとめた後、改めて学習課題について振り返らせる活動を重視していく。</p>